

へと子供達の興味や学習意欲を広げる役割を果たしていくのではないだろうか。

地域の教師やボランティアが協力すれば、その地域の川や浜の砂試料を集め、画像化することはそう難しいことではないだろう。そしてそれらの画像を使って、地方の博物館での展示や地学の副読本の作成など、画像を使った活動の場が大きく広がるのではないだろうか。

砂を扱うさまざまな産業でも活用可能であろう。砂の構成粒子の種類や円磨度のチェックには有効である。特に、より丸い粒子をつくることが求められている砕砂の生産工場などでは、製品の丸さを逐次チェックしながら、製造技術の向上、品質の管理を行っていくことが可能であろう。

さらに、全国各地で砂浜の消失ややせ細りが問題ともなっている。このような場所における砂の移動や砂浜の函養などを考える上でも貴重なデータを提供するものと思う。

砂以外にも、初のような植物の種子や貝殻などの画像化にも有効であろう。この方法が広く皆さんに利用されることを願いながら稿を閉じる。

文 献

須藤定久 (2002) : スキャナーによる岩石類の観察. 地質ニュース, no.574, 46-52.

SUDO Sadahisa, ARITA Masafumi and YATABE Nobuo (2002) : Observation of sand and granules with personal computer and scanner.

<受付: 2002年8月26日>

「スキャナーによる岩石類の観察について」後日談

須藤定久

当誌第574号に掲載した上記の記事について、何人かの方から連絡をいただきました。その中から、2点紹介させていただきます。

(1) ガラス面はOHPフィルムで保護を!

金沢大学教育学部地学教室の酒寄淳史先生からお便りとアドバイスをいただきました。「(一部省略・簡略化)… 実は、私も岩石試料のスキャナーによる取り込みを実践し、画像をモニターやスクリーンに投影し、授業で使用しています。以前は、カメラを使っていましたが、スキャナーを使うと簡単にきれいな画像が得られ、しかもデジタルデータであるためパソコンで処理がしやすいなど、非常に重宝しています。教育現場においても有用な手段であることは間違いありません。通常、大学や研究所で使う高価な機材は、小中高校などの教育現場では使えません。スキャナーのような比較的安価な装置を使ってできるアイデアを地質ニュースで今後も紹介して下さい。

私の場合、ガラス面に透明なPPC用OHPフィルムを敷きその上に岩石試料を載せてガラス面に傷が付くことを防いでいます。OHPフィルムを介しても特に画像が不鮮明になることはありません。…」

(須藤の失敗談: 薄いフィルムの方がよいのではと考え、調理用のラップフィルムを、結果はX。フィルムのしわがモアレを起こします。)

(2) 石材業界にも朗報-月刊「石材」誌から

石材の見本を詰めた重いカバンを持ってお客様の所をまわるのが石材屋さんの営業マンの仕事。見本1個の重さは小さいもので50g、大きなもので数kg。500g程度の見本を50種類持つと、25kg。これを持ち歩くのは大変な仕事。画像が石材の見本の代わりになれば石材業界には大きな朗報ということで、石文社の関根氏が見本を持って訪ねてこられた。

筆者も、石材画像の取り込みに協力。厚い板紙に強力な接着剤で貼り付けられたタイル状の見本、その厚さはまちまち。3枚の見本のうち、真ん中の見本は薄手で、両側の厚手の見本より約1cm窪んだようになっている。ものは試しで、これもスキャンしてみた。うまくいった。スキャナーのガラス面から約1cm離れておかれた試料もそこそこ対応してくれるようだ。

月刊「石材」誌の評価は「これは使える!」で、同誌2002年9月号に特集記事としてこの方法が紹介されました。